

大阪湾漁場環境速報

平成20年 5月 8日発行
兵庫のり研究所

(水温) 表層は湾内14~18 台で、平均15.6。 平年(過去10年平均 16.3)比0.7、昨年(16.5)比0.9 それぞれ低い。 -10m層は平均14.3 で、平年(15.0)比0.7 低い。 表層塩分の低い調査点(012,018)では、表層と-10m層の水温差(4~5)が大きく、強い成層が観測された。

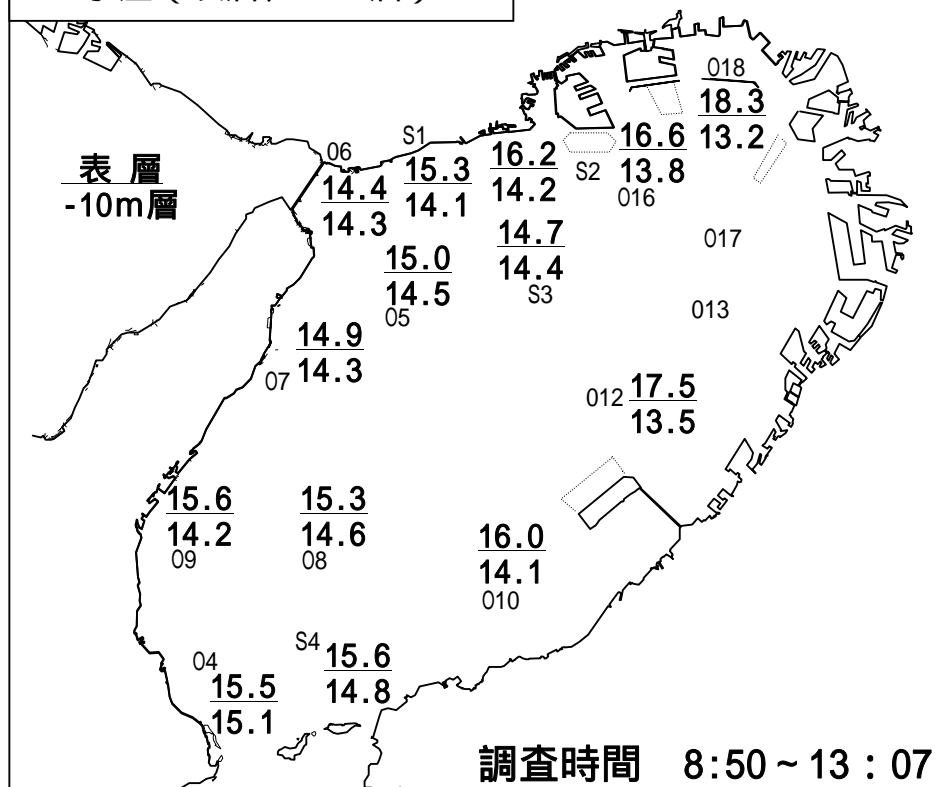
(塩分) 表層平均31.69psu(平年 31.47)。 -10m層平均32.36psu(平年 32.44)。

(栄養塩、他) 表層の窒素濃度は平均1.5 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン濃度は平均0.36 $\mu\text{g-at/L}$ 。 窒素は平年(4.6)より低いものの、リンは平年(0.16)より高い値を示している。 -10m層(平均)は、窒素1.9 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.40 $\mu\text{g-at/L}$ 。 淡路島志筑沖~関西空港周辺では、窒素濃度が著しく低い値を示している。 夜光虫(ノクチルカ)の赤潮は、神戸空港周辺および志筑沖(特に神戸空港~六甲アイランド沖)で認められたが、先月に比べると湾全般に発生量は減少していた。 また、湾奥部(018)では、スケルトネマを優占種とした小型珪藻が多く発生しており、赤潮(褐色)を形成していた。 その他の海域では、珪藻、渦鞭毛藻などの植物プランクトンが認められたものの、赤潮には至っていない。 透明度は2.0~9.0mで、平均6.0m。 pHは表層平均8.31。

上段(今回値)	平成20年5月7日調査
中段(昨年値)	平成19年5月7日調査
下段(平年値)	

調査地点	水温()	塩分(psu)	三態窒素($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸($\mu\text{g-at/L}$)
04	15.5	32.71	2.0	0.39
	16.3	31.98	0.6	0.12
	16.2	32.66	2.9	0.18
05	15.0	32.28	1.0	0.33
	16.3	31.82	1.8	0.17
	15.7	32.07	4.1	0.20
06	14.4	32.29	2.3	0.41
	14.8	32.41	3.8	0.36
	15.1	31.98	5.5	0.21
07	14.9	32.31	1.8	0.37
	16.6	32.22	2.1	0.27
	16.0	32.01	3.6	0.22
08	15.3	32.22	0.1	0.44
	16.0	32.23	2.0	0.25
	16.5	32.13	1.8	0.12
09	15.6	32.32	0.4	0.45
	16.2	32.94	1.4	0.23
	16.4	32.36	3.8	0.23
010	16.0	31.66	0.0	0.34
	17.3	30.68	1.6	0.10
	16.9	31.15	2.3	0.08
012	17.5	30.29	0.1	0.24
	17.3	30.34	3.8	0.10
	17.1	30.42	5.0	0.09
013				
	17.0	30.41	7.8	0.10
	16.6	29.37	4.6	0.29
016	17.9	26.52	22.4	0.35
	16.7	28.87	12.0	0.14
017				
	17.1	28.22	37.2	0.52
	18.3	22.60	28.3	0.38
018	18.0	27.87	12.2	0.27
	17.5	24.86	36.9	0.78
	15.3	31.40	0.7	0.28
S1	16.6	29.85	6.4	0.15
	16.1	30.95	5.1	0.14
S2	16.2	30.20	2.8	0.30
	16.5	30.30	4.5	0.11
S3	16.6	30.08	6.5	0.11
	14.7	32.27	2.0	0.44
S4	17.2	31.57	5.2	0.54
	16.5	31.42	4.7	0.19
	15.6	32.64	1.3	0.35
	16.3	32.36	3.3	0.13
	16.3	32.99	3.1	0.17

水温(表層、-10m層)



窒素濃度(表層、-10m層)

